

Jリーグクラブを母体とするアイスホッケーチーム同士の交流戦（第2戦）

サッカーのJリーグクラブを母体とするアイスホッケーチームAC長野パルセイロと水戸ホーリーホックとの交流戦が2月23日、長野市のビッグハットで開催されました。この交流戦は、競技人口の減少が続くアイスホッケーの普及・振興を図るため、Jリーグの知名度を借りることにより、少しでもアイスホッケーに興味を持ってもらおうと企画したものです。



初戦は一昨年11月に茨城県のひたちなか市で開催しましたが、昨年は新型コロナで開催できず、1年3か月ぶりの対戦となりました。2度目の交流戦は、劇的なシーソーゲームの末、水戸が長野に7（1-2-4）対6（1-4-1）で勝利し、AC長野パルセイロの雪辱は叶いませんでした。

会場には、AC長野パルセイロアイスホッケーチームの小中学生選手やその関係者のほか、サッカーチームのサポーターなど約400人が駆け付け、白熱した試合を堪能しました。



大勢のAC長野パルセイロ・サッカーサポーターも応援



GBP賞を受賞した山下選手（左）と室谷選手（右）

全国に60あるJリーグクラブでアイスホッケーチームがあるのは長野と水戸だけですが、こうした社会人チームの活動の輪が全国に広がり、ジュニア選手に夢を与えられるようにしたいと願っています。